



上向台小だより

10月号

西東京市立上向台小学校

令和5年10月2日

<http://www.nishitokyo.ed.jp/e-kamimukoudai>



生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けて 校長 酒見 裕子

秋と言えば、食欲の秋、読書の秋……そして、スポーツの秋！スポーツの秋と聞いて思い浮かぶものの一つとして「運動会」があるのではないのでしょうか？日本では誰もが知る「運動会」ですが、その歴史は明治時代に遡ります。イギリス人のダグラスが海軍兵学寮の学生に対して、運動を推奨するために催した「競闘遊戯会」が、日本初の運動会とされています。

その後、初代文部大臣の森有礼が集団訓練により規律や秩序を守る人間を育てるために、全国の学校に運動会を義務付けたことから、日本各地で行われるようになったと言われています。また、戦時下では、軍事色が強まり、訓練的な種目が多くなっていきました。「騎馬戦」や「棒倒し」などは当時の名残です。

私が住んでいる地区では、今でも8町会対抗の「町民大運動会」が行われています。地域スポーツの振興と地域の親睦や交流を目的として開催され、未就学児の種目もあれば60歳以上の方対象の種目、婦人会などの踊りもあり、地域をあげてのお祭りのようです。私はその運動会を見て、昔の小学校時代の運動会を思い出しました。もしかしたら、運動会について、このようなイメージをおもちの方もいらっしゃるかもしれません。

実は、学校の教育活動を実施する上で基準となる学習指導要領の本体には「運動会」という文言はありません。「運動会」は、学習指導要領では「特別活動」の「健康安全・体育的行事」の部分に関連していると言えます。この「体育的行事」は「運動に親しむ態度の育成」、「責任感や連帯感の涵養」、「体力の向上」などに資するようにすることと記されています。その他にも「行事間の関連や統合を図るなど精選して実施すること」なども明記されています。ですから、学校によっては運動会をしないという選択肢もあり得ます（あまり聞いたことがありませんが……）。

そして「運動会」という文言については、学習指導要領本体ではなく、学習指導要領 特別活動編解説に体育的行事の一つの例として登場します。

そこには実施上の留意点として、「運動会などについては、実施に至るまでの指導の過程を大切にすること」や「体育科の学習内容と連携を図るなど時間の配当に留意すること」、「児童自身のもので実施することが大切」、「いたずらに勝負にこだわることなく、また、一部の児童の活動にならないように配慮すること」と示されています。

運動会の実施上の留意点には、このように示されているものの、これまでの日本の一般的な運動会では、様々な期待からSHOW的な要素が強くなり過ぎる実態があったと思います。

こうした運動会の歴史的背景や根拠となる学習指導要領を見直すことで、本校における「体育発表会」の意義をより広い視野から見直すことができるのではないかと考え、行事そのものの在り方やその意味を根底から検討しました。

そこで、今年度の体育発表会では、「体育科の学習内容と関連した内容であること」、「児童自身のもので実施すること」について、改めて教員と確認しました。そして、「一人一人の子どもを主語にする体育発表会」を目指し、子どもたちが主体的に体育発表会に取り組むことができるようにしていくとともに、運動が苦手な児童にも配慮をして、体育嫌いを生まない工夫を考えていきたいと思っています。

私が教員だったときは考えられませんでした。が、表現リズム遊びや表現運動では、Google クラウドスループで動画を見られるようにしたり、ダンスリーダーを募って踊りや動きを考えたりしている学年が多いようです。子どもたちのコメントを見ると「かっこいい振り付けを考えて、動画に撮っておきます。」、「ダンスリーダーになったので、ポイントをみんなに教えていきます。」など子どもたちが「自分自身のもの」として意欲的に取り組もうとしている様子が分かります。

教師主導で指導した方が、効率的で見栄えもよいこともあると思いますが、子どもたちの主体性は損なわれるでしょう。練習を無理やりさせるのではなく、子どもたちがすすんで取り組むことができるようにしたいと思います。とすると、かつての運動会を知る方々の中には物足りなさを感じる人もいらっしゃるかもしれませんが、体育発表会は、子どもたちが体を動かして協力し合い、協議を通じて成長する大切な行事です。

人生100年時代の子どもたちには、生涯にわたって元気に過ごせるよう、スポーツが自分の人生を楽しくさせるものであることを知ってほしい。そして、そのような思いをもてる体育発表会にしたいと考えております。

児童にとって、地域の方や保護者の皆様の励ましや声援が、何よりの励みになります。会場の都合により立ったままの応援となってしまいますが、今年度は、全学年の種目を公開します。

御多用の中とは存じますが、子どもたちの成長を、ぜひ御覧いただければ幸いです。